

YOKOHAMA SANTA SUP CRUISE 開催されました!

12月22日に、大岡川において、YOKOHAMA SANTA SUP CRUISE(主催:横浜SUP倶楽部、後援:一般社団法人大岡川川の駅運営委員会、



総勢97名のサンタがSUPに乗って、パレードクルーズしました。撮影:道下勝基

NPO法人HamaBridge濱橋会)が開催されました。

2013年から柿澤寛代表(横浜SUP倶楽部)が始めたこのSUPに乗ってのサンタクルーズ。今回で7回目を迎え、回を重ねるごとに参加者は増えて毎年恒例行事化しています。

あいにくの肌寒い曇り空の中でも97名のサンタが集まって、日ノ出町・桜枝橋からみなとみらい往復のパレードクルーズを楽しみ、多くの観客たちに河川美化を伝えました。

ちなみに、当NPO・豊田理事長も毎年参加し、今年で6回目。サンタコスプレで漕ぎ、真冬なのに汗びっしょりになっていました。

大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人

絵本作家

東郷 なりさ(とうごう なりさ)さん

<http://narisatogo.blogspot.jp/>



「ちょっと古臭い感じと可笑しい感じがして、でも愛おしい日本のお花見が大岡川にある」 撮影:豊田直之

この2月10日に福音館書店より大岡川流域の桜を舞台にした絵本『さくらがさくと』を出版された東郷なりささん。

出版前に絵本を見せていただきお話をうかがった。

まず、柔らかな桜色の背景に「わー」と歓声をあげてしまった記者。ページをめくる度に表れる春の柔らかな光に、どうやって描かれたのですか!?と思わず聞くと、実際に使った道具や絵の具で説明してくださいました。

今回はスパッタリング技法(網とブラシで、絵の具を小さな粒にして画用紙に飛ばす技法)を多く使われたそう。そのため、絵の具を飛ばしたくない所、例えば小さな花びら一枚一枚にも載せた「紙の覆い」が膨大な数で、気の遠くなる思いがした

が、これぞ作家の情熱だろう。

鳥好きが高じ東京農工大学で学んだ後、ケンブリッジ・スクール・オブ・アートで絵本や児童書の挿絵を学んだそう。自らが表現したい世界観に近づくために、版画、水彩画など幅広い技法を駆使されているようだ。



原画展開催 3月12日(木)~4月12日(日)「子どもの本&クーベルチップ」にて 南区大岡2-1-17-102 <http://ehonsuki.wordpress.com/>

特筆すべきは、全ての生き物への愛情があふれ、その上、遊び心があることだと記者は思う。まだ かげはつめたいでも、まいにち すこしずつひが のびて、あたたかくなっている。(本文より) この絵本に出てくる「大岡川桜祭り」が待ち遠しい。大岡川流域、まもなく春!

『第8回 川でつながるSDGs交流会』 真のSDGsを語り合い、アクションにつなげる会

11月27日(水)、第8回目の川でつながるSDGs交流会が開催されました。この日の講師は、横浜市資源リサイクル事業協同組合企画室長の戸川孝則さんとNPO法人海の森・山の森事務局

理事長の豊田直之さん。戸川さんは、平成12年から取り組み始めて昨年で20回を迎えた環境絵日記と子どもたちとの取り組みについて講演。環境絵日記は、小学生を対象として、今

後の地球環境について子どもたちのアイデアを絵日記として描いてもらうもの。毎年素晴らしいアイデアの作品が応募され、企業などがそのアイデアを商品化した例などを解説。



講演いただいた横浜市資源リサイクル事業共同組合の戸川孝則さん。撮影:今井俊志

豊田さんは、地球温暖化の影響で、標高およそ6000mの山頂にある氷河が溶融していることを取材しに、昨年10月に登ったア

フリカ大陸最高峰・キリマンジャロについて講演。40年前と比べて、もう4分の1しか残っていない氷河。実は、我が国ニッポンが地球

温暖化の主犯格であることを知った話。またアフリカのプラスチックゴミ事情についても話をしました。

この会では、SDGsの真のアクティビストたちの話が毎回聞けます。

次回は、3月11日(水)に開催予定です。

『川でつながるSDGs交流会』についてのお問い合わせ

株式会社大川印刷
TEL 045-441-2011
FAX 045-441-2014
E-mail magokoro@ohkawa-inc.co.jp



吉敷月に開催される川でつながるSDGs交流会。毎回、南区の株式会社太陽住建内にある「おひさま広場」にて開催。よくありがちなSDGsの理解ではなく、本当の活動を展開している方たちの生の話が聞ける貴重な場。熱気に溢れる盛り上がりを感じませんか? 撮影:今井俊志

大岡川の『生き物みつけた!』No.15 カラタチバナ



よく知られるセンリョウは葉の上に実がなりますが、本種は葉の下の側に垂れるように実がなります。撮影:道下勝基

本種は、百両(ヒャクリョウ)という別名でも呼ばれ、正月に飾る千両(センリョウ)や万両(マンリョウ)と同様に縁起の良い植物とされています。

高さ20~70cmほどの常緑小低木。7月に白い小さな花を咲かせ、11月には7~9mmほどの赤い実をみせします。

マンリョウとよく似ていますが、葉や実は本種の方が大きく、葉の縁がマンリョウは緩やかな波状になっているのに対し、本種は不明瞭な波状の鋸歯突起があることで区別できます。

日本原産の植物で、常緑樹林で生育しますが、主に西日本に分布し、関東地方での自生は珍しいです。

今回、大岡川の源流エリアの円海山に登る途中の窪地で、実のついていない小さい木を含め、十数本の本種木を見つけることが出来ました。ここでの自生ではなく、鳥が実を運んだのではないかと考えられます。



赤い実が春まで残ります。撮影:道下勝基

湘南太陽会グループは 人々の心とからだの健康を総合的に支援します。

湘南太陽会

毎日診療しているクリニック SHONAN TAIYO 鳥居泌尿器科・内科 [金沢文庫]

23時まで診療しているクリニック Aoi 23 clinic 相生23クリニック [関内]

駅前21時まで診療しているクリニック ねぎし泌尿器科・内科 [根岸]

泌尿器科トラブルの総合カウンター スカイビル 腎・泌尿器科クリニック [根岸]

株式会社 太陽住建 Taiyo Jyuken

0120-460-025 横浜市港区井土ヶ谷下町 6-1 リバーサイドマンション 1階

大岡川で取材した桜の絵本ができました! 『さくらがさくと』

とうごう なりさ 32ページ 定価(本体1,400円+税)

川沿いの桜並木で繰り広げられる自然と人間のやさやかなドラマを描いた絵本です。

福音館書店 <https://www.fukuinkan.co.jp>

横濱の老舗 勝烈庵